

令和4年度 重度知的障がい者地域生活支援体制整備事業 報告 令和5年3月17日

発表時間：7分
内容：事業の概要、進捗
状況等について



現状・課題

1. 重度知的障がいに対応可能なグループホーム（GH）に対するニーズ

- 府内入所施設利用者の重度・高齢化が進み、今後さらに地域移行を進めるため、また、重度知的障がい者の「親なき後を見据えた」**住まいの場**の確保のためにも、**重度知的障がい者の支援ノウハウを持つGHが必要**。＊現在、府内の入所施設は常時満床状態で入所待機者も多く、地域資源の少なさが施設入所ニーズに結び付いている。
- 地域生活支援拠点の役割の1つに「専門人材の養成」があるが、重度の知的障がい者の場合、支援方法が適切でないと自傷・他傷・破壊行為等の行動障がい呈することがある。行動障がいに対応できる人材養成に関しては、これまでの国等の研究成果、少数のノウハウのある事業所の知見も必要とすることから、**市町村単位では困難**。

2. 府内の障がい者向けGHの状況

- GHの事業所数・利用者数とも増加してきているが、非正規職員を多数雇用せざるを得ない状況で、GHごとに支援スキルは千差万別。重度障がい者を受入れている事業所も多くはない。
＊直近では平均支援区分は**3.96**程度で頭打ち。
- 重度障がい者重度知的障がい者の支援ノウハウを有する事業所は少なく、また、GHに対して助言等をする仕組みもないため、支援方法に行き詰った場合も、どう解決したらいいか苦慮する事業所が多い。

■施設入所者の状況(R2.4.1時点)

施設入所者数（政令市除く）	3,028	—
区分5,6の入所者	2,695	89.0%
行動障がいを有する者	2,508	82.8%

40歳以上の重度知的障がい者（政令市を除く）；約7,800人～

■府内のグループホームの状況

	H27	H28	H29	H30	R1	R2
利用者（人）	6,809	7,294	7,818	8,520	8,298	8,971
事業所数	439	473	513	573	634	719
障がい支援区分	3.71	3.90	3.96	3.92	3.96	3.97

事業の概要

1. **事業目的**：重度知的障がい者に対応可能な支援スキルを持つ法人を増やし、重度知的障がい者の地域での生活を支える体制を整備する。

2. **事業期間**：R3～R6（3年間）

<1法人あたり3年間実施>

1年目：知識と技術の獲得と実践・・・法人内1事業所で実際に支援に困っている1～2事例をもとに、支援方法を学ぶ。

2年目：支援力の確立と定着・・・法人内複数事業所の数事例で実践を繰り返し、適切な支援を定着させ、GH等での支援ノウハウを獲得する。

3年目：教える力の獲得と実践・・・委託法人の訪問コンサルに同行し、他法人に対してコンサルテーションできるスキルを培う。

3. **事業内容**：先駆的に取り組む法人に委託し、そのノウハウを活用して、重度知的障がい者に対応可能な5法人（コロナ禍の影響を考慮し、R4までの間に順次開始。R3:3法人でスタート）を養成する。参加法人は公募。

☒ 「実地研修」「コンサルテーション研修」等により、障がい特性に応じた専門的な支援方法や環境設定、組織マネジメントなど、法人全体で適切な支援を行う上で必要となる知識や技術を具体的かつ体系的に習得。

☒ 実践報告会の実施により地域に参加法人の取組み等を周知。

重度知的障がい者地域生活支援体制整備事業の具体的な取組みについて

主な実施内容

強度行動障がい支援者養成研修に基づく内容

重度知的障がい者の適切な支援には、専門的な知識のほか、根拠に基づいた支援計画の立案・実践と記録、評価、再計画といったサイクルを着実に実施するスキルが必要。

(内容)

- ◆ 実地研修(委託法人GHで実体験)
 - ◆ コンサルテーション研修(委託法人からの訪問コンサル)
 - ◆ 合同研修(参加法人の情報交換の場)
- ☞ **OJTを中心とした研修を実施。**

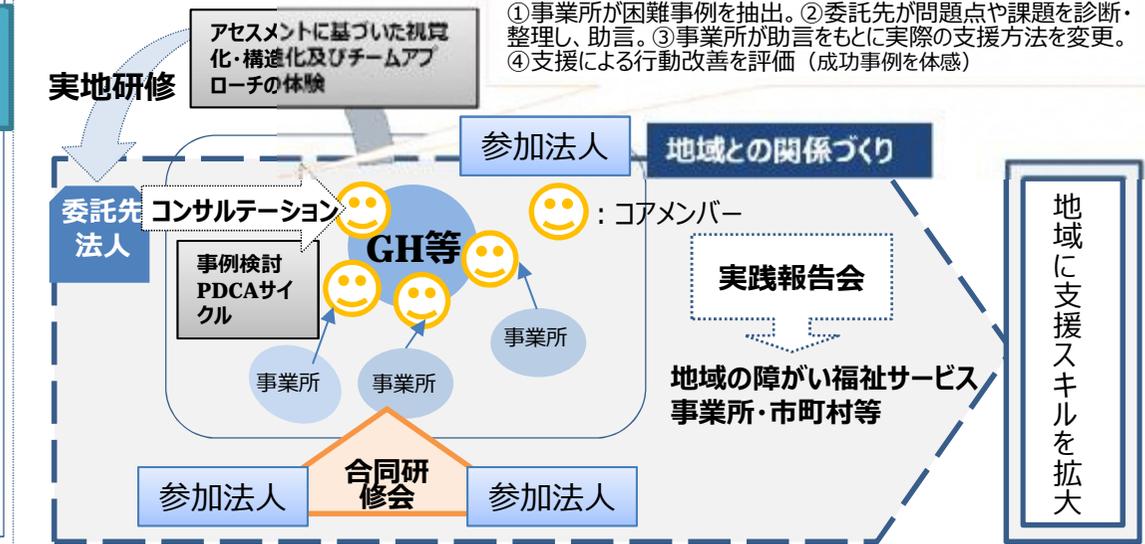
(対象) 参加法人のコアメンバー※ (管理者含む)

※ 法人内のGH, 日中系事業所から、今後法人の中核を担うメンバー4~5名を参加法人が選出。

(周知の方法)

府内事業所・市町村に周知するため、「実践報告会」を実施。

【事業のイメージ図】



1年目~3年目の取組

年数	訪問コンサルテーション (コンサルタントが参加法人を訪問し助言などを行う)	実地研修 (委託先: 受託法人のGH)	参加法人内での取組みの変化
1年目	回数: 概ね9回程度「支援手法の獲得」 ① 事業所が困難事例を抽出。② コンサルタントが問題点や課題を診断・整理し、助言。③ 事業所が助言をもとに実際の支援方法を変更。④ 支援による行動改善を評価 (成功事例を体感) を繰り返していくことで、支援効果をコアメンバーが体験し支援手法を獲得する。	回数 6日程度 ・PDCAサイクルが機能しているグループホームで実地研修を行い、アセスメントに基づいた支援や視覚化などの構造化の支援効果を実体験することで、PDCAサイクルに基づく支援の有効性を確認。	・個人の価値観に基づく支援 → 障がい特性のアセスメントに基づいた支援 ・本人の視点や強みに着目した支援 ・その日の出来事や日常の様子を記録 → 課題となっている行動など目的に着目した記録
2年目	回数: 概ね5回程度「支援手法の定着」 ・コアメンバーが主体となり、アセスメントに基づいた支援計画の立案・実践と記録、評価、再計画といったサイクルを実施していく。コアメンバーが支援サイクルを回す中で、必要に応じて、コンサルタントから評価、助言を受け、コアメンバーが自立した支援を体験し、支援手法を定着させる。	回数 6日程度 ・チームアプローチなどを実践しているグループホームなどで実地研修を行い、有効な情報共有や意見交換などの具体的なチームアプローチの方法などを実体験する。	・担当 (単独) による支援 → 担当者をはじめとしたチームアプローチを意識した支援、行政や地域の事業所との連携した支援 ・事業所単位での支援 → 事業所間での連携を意識した支援
3年目	回数: 概ね4回程度「支援ノウハウの伝達スキルの獲得」 ・アセスメントツールを使ったアセスメントの体験及び、アセスメントへの評価に対する助言を受けることで、アセスメント手法を獲得する。 ・他事業所の事例へのアセスメントを実施し、見立て、評価などを行い、支援ノウハウを伝達する体験を行い、伝達スキルを獲得する	回数 5日程度 ・コアメンバーを中心に、他法人の訪問コンサルテーションなどに同行し、事業所の支援スキルをアセスメントする際必要な視点やコーチングスキルを体験し獲得する。	・コンサルタントによるアセスメント → コアメンバーによるアセスメントと評価の実践 ・事業所毎の人材育成 → 近隣地域の事業所への支援ノウハウの還元を意識した支援

重度知的障がい者地域生活支援体制整備事業の具体的な取組みについて

法人	運営事業	法人の特徴	現在の取組
A	施設入所支援 生活介護 共同生活援助 相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に外部講師を招聘し、積極的にアセスメントや構造化支援に取り組んできた。 ・法人内事業所の合同実践報告会を実施し、法人の人材育成に取り組んできた。 ・大阪府の強度行動障がい支援者養成研修のファシリテーターを担ってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業で目的とした根拠に基づいた支援計画の立案・実践と記録、評価、再計画といったサイクルを着実に実施する支援スキルは備わっている。 ・現在は、若手職員なども含め活発な意見交換が可能な職場づくりに取組むとともに、他事業所を含めた人材育成のために必要なコーチングスキルや他事業所を支援する際に必要な視点の獲得に向け取組んでいる。
B	施設入所支援 生活介護・就労継続B型 グループホーム 相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化・重度化に備え、グループホームの整備などに取り組んできた。 ・地域の施設CSWを担うなど、地域に根差した法人として取り組みを進めてきた。 ・就労継続B型でも重度障がい者を受入れるなど、法人として重度障がい者の支援に取り組んできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コアメンバー間では、特性理解のアセスメント手法が定着してきた。 ・入所施設からグループホームへの地域移行に向けた事例検討を通して、法人内の連携強化、人材育成を行っている。 ・地域生活支援拠点等の専門的人材の養成、確保の取り組みとして、本事業を活用し「障がい特性の理解」の研修などを実施し、行政や地域の事業所とのつながりを深めている。
C	生活介護・グループホーム 相談支援、就労・生活支援センター、短期入所	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待予防のため、継続的に外部講師を招聘し、アセスメント、構造化支援に取り組んできた。 ・入所者の地域移行を進めるため、集合住宅などでグループホームなどの運営を行ってきたが、強いこだわりや他傷などの状態がある利用者の支援に難しさを感じていた。 ・地域に根差した法人となるよう、重度障がい者を積極的に受入れるなど地域支援に取り組んできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人でアセスメントの重要性を理解し、コアメンバーが自閉症Eサービスの評価キットの研修会に参加した。また、研修を受講したコアメンバーが他事業所の事例のアセスメントを行い、法人内でアセスメントの評価の共有を行い、アセスメントスキルの定着に取り組んでいる。 ・相談支援事業所の職員がコアメンバーとして参画していることもあり、地域の行動障がいの状態を示す知的障がい者の事例などに対しても、本人の特性に応じ支援の構造化などに取り組んでいる。
D	施設入所支援 生活介護 グループホーム 相談支援	<ul style="list-style-type: none"> ・入所施設で重度障がい者を受入れ支援に取り組んできた。 ・入所者の重度化・高齢化により、これまでの支援に行き詰まりを感じ、アセスメントに基づいた特性理解などの支援の必要性を感じ、法人として重度障がい者の地域移行、専門的な支援スキルの向上の必要性を認識してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントに基づいた、視覚支援をコアメンバー間で実施するなど、統一した支援に向けて取り組んでいる。 ・法人全体の支援力向上のためには、若手職員などを含めて活発な意見交換ができる環境が必要だと認識し、今後、会議のあり方などの見直しを行う予定にしている。
E	生活介護 グループホーム 短期入所	<ul style="list-style-type: none"> ・外部講師を招聘し、障がい理解や構造化支援についての研修を行うなど人材育成に取り組んできた。 ・地域の重度障がい者等を受入れ支援に取り組む中で、強度行動障がいの状態を示す方や、愛着障がいを示す方の支援に難しさを感じてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コアメンバー間で個々の特性に応じた支援の必要性和見直しの重要性を認識し、チーム内で有効に情報を共有できるよう検討を進めている。 ・手順書を用いるなど、統一した支援への取組を開始しているが、手順書の更新などに課題を感じている。 ・チームアプローチのためには、活発な意見交換ができる環境づくりの必要性を感じ、記録のとり方や情報の共有方法などを検討している。
F	共同生活援助 ショートステイ 生活介護 居宅介護 基幹相談支援センター	<ul style="list-style-type: none"> ・法人として、地域生活支援拠点等を担うなど、行政、地域の事業所と連携し、積極的に地域支援に取り組んできた。 ・地域の重度障がい者等を受入れ、支援していく中で強度行動障がいの状態を示す方や、愛着障がいを示す方の支援に難しさを感じ、職員間での情報共有を行いチーム支援を行うことの重要性を感じてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コアメンバーによる特性に基づいた支援、視覚化や構造化の支援に取り組み始め、コアメンバー以外からも本人の支援や環境調整に関する意見が出るようになるなど、事業所全体の支援の向上につながっている。 ・有効なチームアプローチを実施するためには、若手職員を含め、支援で気づいたことや、感じたことを共有できる活発な意見交換の場の必要性を管理者が感じ、実践に向けた検討を行っている。

施設評価の指標

		標準的な支援実施状況表			事業所名:		
項目	1	2	3	4	5	6	
①	アセスメント (障害特性シート)	活用していない	特定利用者の障害特性シートを使ってアセスメント	特定利用者に課題、場面を設定しての直接観察	特定利用者にフォーマルアセスメントの実施	複数の利用者にアセスメントが実施されている	フォーマル、インフォーマルアセスメントが事業所内で浸透し活用されている
②	アセスメント (氷山モデル)	活用していない	氷山モデルシートの考え方を知っている職員がいる	氷山モデルを記入したことがある	特定利用者に氷山モデルシートを使って支援の仮説が立てられている	複数の利用者に氷山モデルシートが活用されている	氷山モデルの考え方が事業所内で浸透し活用されている
③	支援手順書	活用していない	特定利用者に活用されている	複数のケースで活用されている	活用と改定が定期的に行われている	複数の利用者に支援手順書が活用されている	支援手順書を活用し事業所内で統一した支援が実施できている
④	記録	活用していない	必要な記録のみ	スカッタープロットが活用されている	目的に合わせた記録の活用	複数の記録が活用されている	事業所内で記録の活用、分析が浸透している
⑤	物理的構造化	活用していない	特定利用者に衝立など刺激の調整	活動エリアの設定や視覚的な指示などのアイデアが活用されている	必要に応じて再構造化が実施されている	複数の利用者に物理的構造化が活用されている	構造化のアイデアが事業所内で浸透し活用されている
⑥	視覚的スケジュール	活用していない	特定利用者に視覚的スケジュールが提示されている	特定の利用者に提示されたスケジュールが自立した活動につながっている	必要に応じて再構造化が実施されている	複数の利用者に視覚的なスケジュール活用されている	視覚的なスケジュールが事業所内で浸透し活用されている
⑦	ワークシステム	活用していない	特定利用者にワークシステムのアイデアが活用されている	特定利用者にワークシステムのアイデアが活用され自立した活動につながっている	必要に応じて再構造化が実施されている	複数の利用者にワークシステムのアイデアが活用されている	ワークシステムのアイデアが事業所内で浸透し活用されている
⑧	チームアプローチ	理念・知識の共有 個別支援計画の推進 職員間のコミュニケーション(会議) 職員育成 上記項目で具体的な取り組みがない	理念・知識の共有 相談・連絡 職員間のコミュニケーション(会議) 職員育成 上記項目で1つ以上具体的な取り組みをしている	理念・知識の共有 相談・連絡 職員間のコミュニケーション(会議) 職員育成 上記項目で2つ以上具体的な取り組みをしている	理念・知識の共有 相談・連絡 職員間のコミュニケーション(会議) 職員育成 上記項目で3つ以上具体的な取り組みをしている	理念・知識の共有 相談・連絡 職員間のコミュニケーション(会議) 職員育成 上記項目すべてで具体的な取り組みをしている	利用者支援にチームで取り組むことができている
		具体的な取り組み	具体的な取り組み	具体的な取り組み	具体的な取り組み	具体的な取り組み	

アセスメント(障がい特性シート)

アセスメント(氷山モデル)

支援手順書

記録

物理的構造化

視覚的スケジュール

ワークシステム

チームアプローチ

1:実施されていない

2:特定のケースに活用

3:特定ケースについて活用の度合いが大きい

4:再構造化等のプロセスが実施されている

5:複数のケースに対して活用されている

6:事業所内で浸透している

(R4年度) 重度知的障がい者地域生活支援体制整備事業 (その他の評価スケールについて)

- ・訪問コンサルテーションで検討した事例に対して実施。
- ・年2回 (開始時と年度末)

重度知的障がい者地域生活支援体制整備事業 対象利用者行動評価

法人名 ()		事業所名 ()			対象ご利用者名 ()				
有無 あれば○	行動	頻度による評価			行動の程度などの特記 事項 (支援前の状況)	支援前評価 点数	支援 中間評価 点数	支援後 評価 点数	支援前と支援後の差異 (定量) 支援後の特記事項 (定性)
		0点	1点	2点					
	【表出コミュニケーション】 本人独自の表現方法を用いた意思表示	独自の方法によらず意思 表示できる	時々、独自の方 法でないと思 意表示できない ことがある	常時独自の方 法での意 思表示 できない					
	【聴解のコミュニケーション】 言語以外のコミュニケーション手段を用いた説明の理解	日常生活において言葉 以外の独自の方 法(フェスチャー、絵カード 等)を用いなくても説明 の理解ができる	時々、独自の方 法でないと思 明の理解がで きないこと がある	常に言葉以外 の方法で ないと思 明理解がで きない。 言葉以外 の方法を用 いても説 明の理解 がで き ない					
	【動き】 多動または行動停止	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日(1日 回)					
	【不安定な行動】 パニックや不安定な行動	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日(1日 回)					
	【自傷】 自分の体を叩いたり傷つけたること	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日(1日 回)					
	【他害・破壊】 叩いたり蹴ったり、器物を壊したりなどの行 為	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日(1日 回)					
	【不適切な行為】 他人に突然抱きついたり、断りもなく物 を持ってくる行動	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日(1日 回)					
	【大声・奇声】 環境の変化により突発的に通常と違う声 を出すこと	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日(1日 回)					
	【突発的行動】 突然走っていきくなるような突発的な行 動	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日(1日 回)					
	【異食】 食べられないものを食べること	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日(1日 回)					
	【過食・多飲水・反す】 過食、多飲水、反すう等の食べること飲 むことに関する行動	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日(1日 回)					
	【確認行動】 気になるところなど、何度も同じ確認をす る行動	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日(1日 回)					
	【こだわり】 物や人に対する固執、執着が強い行 動	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日(1日 回)					
	【睡眠】 睡眠がとれなくなったり、昼夜逆転などの 睡眠に関すること	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日(1日の睡眠時 間)					
	【排泄に関して】 頻回にトイレに行くなど、排泄に関 しての不適切な行動	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日(1日の睡眠時 間)					
	その他、本人や周囲が困っている行動が ある	まれにある。または、月 に1回程度	1週間に1回程 度	毎日(1日の睡眠時 間)					
	【行動のタイトル記入】								
						0	0	0	10

第1回運営委員会で意見をいただきOOLの視点を盛り込む

・支援前と支援後の総合的な変化
支援後「出来ることが増えた」「笑顔が増
えた」など
・支援前、中間、支援後の合計点数

(R4年度) 重度知的障がい者地域生活支援体制整備事業 (その他の評価スケールについて)

・法人が運営する事業所の職員に対して実施。
 (可能な限りでご協力をお願いしております)
 ・年2回 (開始時と年度末)

内容	行動	※	程度
個別支援計画	今の状況に一番近いものを1～6より一つ選択して下さい。	1	個別支援計画を意識して支援したことがない。
		2	個別支援計画の達成を意識して、担当者が主に支援を行っている。
		3	個別支援計画の達成を担当者が意識して行っており、全職員(棟やユニットでも可)に周知している。
		4	個別支援計画の達成を担当者を含めた複数名が意識して実践している。
		5	個別支援計画の達成を全職員※(棟orユニットでも可)が意識して実践している。
		6	個別支援計画を全職員※(棟orユニットでも可)で検討・作成し、意識して実践している。
担当利用者の特性について <small>※特性や障害のこと、好きなこと、苦手なこと、嫌いなこと等</small>	今の状況に一番近いものを1～6より一つ選択して下さい。	1	必要性がない。
		2	理解したいが理解するのが難しい。
		3	なんとなく日々の行動から特性を理解しているが、適切に理解できているかどうか分からない。
		4	日々の行動のアセスメントやデータ等の根拠に基づき理解している。
		5	日々の行動のアセスメントやデータ等の根拠に基づき理解し、支援を組み立てている。
		6	日々の行動のアセスメントやデータ等の根拠に基づき理解し、支援を組み立ててチームで共有している。
行動障がいや、自閉症の理解	今の状況に一番近いものを1～6より一つ選択して下さい。	1	必要性がない。
		2	理解したいが理解するのが難しい。
		3	研修等で学びなんとなく理解した。
		4	研修等で概ね理解している。実践にはもう少し時間がかかる。
		5	研修等で概ね理解し、利用者支援を実践している。
		6	研修等で概ね理解し、チーム全体で利用者支援を実践している。
特性に基づいた環境調整等	今の状況に一番近いものを1～6より一つ選択して下さい。	1	必要性がない。
		2	環境調整の方法を知らない。
		3	なんとなく理解し、実践している。
		4	本人の特性に基づき環境調整を行っている。
		5	本人の特性に基づき環境調整を行っており、必要に応じ見直し、改善している。
		6	本人の特性に基づき環境調整を行い、必要に応じ見直し改善を行い、マニュアル等を作成している。
自己学習	今の状況に一番近いものを1～6より一つ選択して下さい。	1	必要性がない。
		2	したいが余裕や時間がない。
		3	職場から指名される研修に参加している。
		4	職場から指名される研修以外にも興味がある研修案内等があれば自ら希望し参加している。
		5	職場から指名される研修も含め、学んできた業務に必要な研修を他の職員に伝達している。
		6	研修(内部研修含む)で学んだことを、職場内などで講師となり研修を実施し伝達している。
職員間のコミュニケーション(相談等)	今の状況に一番近いものを1～6より一つ選択して下さい。	1	相談することがない。
		2	相談したいが、多忙等の理由で相談することが難しい。
		3	困ったことなどを仲の良い職員と相談し解決している。
		4	困ったことなどを、全職員※(棟、ユニット)で4週間に1回程度は会議等で相談できる環境がある。
		5	困ったことなどを、会議等で相談でき、さらにその都度チームに相談できる環境がある。
		6	困ったことなどを、会議等でその都度チームに相談できる環境があり、他事業所とも共有している。
法人の理念やビジョンについて	今の状況に一番近いものを1～6より一つ選択して下さい。	1	理念やビジョンがあるかどうかもしらない。
		2	理念やビジョンを覚えてもらったが、覚えていない。
		3	理念やビジョンがあるということを知っているけど、知っている程度。
		4	理念やビジョンを職員会議等で定期的に確認し知っている。
		5	理念やビジョンに基づいて、支援を実践している。意識して実践している。
		6	理念やビジョンについて、意識して実践し、誰にでも説明できる。
支援を行う上での満足度	今の状況に一番近いものを1～6より一つ選択して下さい。	1	支援の負担感は大きく、かなり悩んで疲れている。
		2	支援の負担感は大きく、悩みも多いが、何とか頑張りたいと思っている。
		3	支援の負担感は軽減してきており、前向きになってきている。
		4	支援が楽しく感じられるようになってきている。
		5	支援が楽しく感じている。もっと様々なことを学びたい。
		6	支援が楽しい。現在のチームで様々なことを学び、周囲に伝えていきたい。

※全職員=宿直などの職員、休日職員等にも兼面等でわかりやすく共有しているものも含む。

実践を振り返って

事業に参加したコアメンバーや管理者の声(主なものや共通して言われていたことを抜粋)

- ・他法人の取組を知る機会がなく、これまで自分たちの支援を振り返ることをしていなかったことに気が付いた。
- ・他法人の成功事例を体験でき、取り組む意欲につながった。
- ・これまでは、自分の価値観や経験に基づいて支援を行ってきたが、一人ひとりの特性（強みや苦手）を理解して、支援することで利用者さんのしんどさが解消されることがわかった。
- ・支援がうまく行っている法人では、非常勤さん、1年目の若手職員、中堅職員、ベテラン職員などの立場や経験に関係なく、気づいたことなど活発な意見交換ができていた。
- ・実地研修先で、若手からベテランまで様々な職員に支援に関する質問をしたが、どの職員からも共通した回答が返ってきて、統一した支援が実施できていると感じた。

参加者の声から推察されること

- ・事業参加前は、専門的な研修を受け、実践しようとしても周りの理解が得られなかったり、その支援が正しいかどうかかわからず、意欲をもって継続させることが難しい状況となっていたのではないかと推察される。（よほどの強い信念と熱い思いを持った人材とよき仲間がいないと「よいと思った支援」を推し進めることが難しい）＝今のままでは、「やる気」に頼るしかない状況。
- ・また、これまで、他法人と交流する機会が少なく、客観的に自分たちの支援を評価することができなかつたため、自分たちの経験や、価値観によつた支援になりがちであったのではないかと推察される。

事業を通して見えてきたこと

- ・管理者や法人の代表が「よい」と思った取り組みは、法人内で推し進めやすい。（**個人の強い信念ややる気だけに頼らずにチームで取り組める**）
- ・訪問コンサルテーションと併せてに実地研修を実施することで、「支援がうまく行く体験を経験できる」、「自信をもって支援の根拠を答えることができる若手職員に触れる」「そこで暮らす利用者がいきいきと生活している姿に触れる」ことで、「よい支援」を体験し、自信をもって支援に取り組むことができる。（**仕事への意欲が向上する**）
- ・実際に「よい支援」を実践している外部の専門家から評価・助言をうけることで、自信をもって今取り組んでいる支援を継続できる。また、支援に対して不安に感じて、客観的に支援の見直しができるため、安心して支援に取り組むことができる。（**組織全体の意欲が向上し、支援を長く継続できる**）

○法人の専門性を向上させるためには、強度行動障がい支援者養成研修に基づいた「専門性」を備えた外部講師による継続的な支援（コンサルテーションやスーパーバイズ）や、チームアプローチの実践が有効。

→同じ方向性をもった同士（法人）を増やすことで、さらに「よい支援」が広がっていく。